

令和6年度事業報告書

I. 法人の概要

名 称 学校法人 華陽学園

所 在 地 岐阜市太郎丸80番地

創 立 昭和40年2月（1965年2月）

目 的 教育基本法及び学校教育法に従い学校教育を行い、建学の精神「人らしく女らしく あなたらしく あなたならではの」を体し、幅広い教養と高度な専門能力を身につけ、社会に貢献できる前途有為な人材を育成することを目的とする。

設置する学校 岐阜女子大学 家 政 学 部 健 康 栄 養 学 科 120名
生 活 科 学 科 50名

文化創造学部 文 化 創 造 学 科 160名

大 学 院 生 活 科 学 研 究 科 6名

文化創造学研究科 13名

文化創造学研究科 37名
（通信教育課程）

上記数字は、入学定員

学 生 数 832名 ※

教 員 数 77名 ※

職 員 数 33名 ※ ※令和6年5月1日現在

役職員の概要 理 事 長 杉山博文

理 事 杉山博文 高口努 後藤忠彦 水谷邦照

田代久美子 池田直樹 杉山涼子

倉坪弘一 久保田智子

監 事 後藤真一 春日井理恵 篠田たつゑ

Ⅱ．事業の概要

1．ぎふ地域DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進事業について

(ア)令和6年度事業の概要は、以下の通りである。

(イ)本事業は岐阜県の補助事業で、令和6年度事業規模は2,450万円、補助額は1,000万円である。

(ウ)事業名を「岐阜県観光資源発信DX推進事業」とし、授業と連携して、観光DX、教育DXなどを学ぶ「岐阜女子大学メタバースプロジェクト」を継続実施した。令和6年度は日本三名泉のひとつ下呂温泉を中心に観光資源を紹介する観光施設の充実を図り、桜めぐりウォーキングや桜まつりなどのイベントを開催して、ホームページなどを利用して海外の観光客にアピールした。学生は、プロジェクトを通して企画、立案、製作、運営、評価、改善する力などをつけ、社会貢献ができる学生に成長している。

本事業は、令和7年度年以降も本学の新たな教育方向として進展を図り、社会貢献も目指すこととしている。

2．岐阜県私立大学地方創生推進事業について

本事業は岐阜県の補助事業で、令和6年度は事業名を「DXで実現するデジタル人材育成事業」として地域人材の育成事業を展開した。事業規模は496万円、補助額は496万円である。

本事業では、具体的にはリスキリング教育プログラムにおけるオンデマンドの学習環境の構築を目指し、プログラムとして、①AI人材の養成(15講座)、②デジタルアーキビストの養成(15講座)、③学校DX戦略コーディネータの養成(15講座)を作成、それぞれe-Learning講座を開講176名の受講者を得ることができた。本学は地域に貢献する大学を目指しており、令和7年度も6年度に実施した3つの人材養成のためe-Learning講座を拡充する申請を予定している。

3．岐阜各務野高等学校との高大連携協定の締結について

本学は、令和6年6月14日岐阜各務野高等学校と高大連携に関する協定を締結した。

この協定は、相互の理念や特色を生かし連携・協力をとおして教育活動の活性化を図り、実施する領域の活動を通して実践力を備えた人材の養成を目的としている。

主な連携・協力内容は、以下のとおりであり、学生・生徒の交流を通して実施している。

①メタバース制作、3Dモデリング、モーションキャプチャ、動画制作等の実践を通じたスキルの習得。

②メタバースやAIを活用した観光資源の発信と観光客誘致による観光DXの可能性の探求。

③その他高大連携・協力に関すること。

4．日本教育情報学会「学会賞」「奨励賞」の受賞について

本学の学生によるメタバースプロジェクトの研究成果を報告した論文「メタバースを利用した遠隔協働学習における創発の可能性」が2024年8月24日に日本教育情報学会「学会賞」「奨励賞」を受賞。

5．飛騨高山大学連携センターとの連携について

飛騨高山をはじめとした飛騨地域を共通のキャンパス（フィールド）として調査研究活動を実践している大学や大学生、地元の高校生、地域住民が集い、研究成果・活動成果を発表する飛騨高山学会において、大学紹介ブースを出展。

毎年高山市の光ミュージアムで実施している書道部夏期錬成会の紹介パネル、書道専修紹介パネルと併せて、令和6年度日展入選作品2点を展示した。

この飛騨高山学会の開催により「地域住民や地元小中高生が大学や大学生と繋がる」、「地元企業や経営者と大学が繋がる」、「高山のまちづくりと先端的な手法、提案、技術が繋がる」、「大学生の情報発信により、高山が国内外の多くの人と繋がる」、「大学同士、大学生同士が飛騨高山を通して繋がる」ことを目指している。

6. 長寿健康栄養学センターについて

長寿健康栄養学センターでは、本学健康栄養学科が主体となり、長寿・健康に関する地域支援をめざす拠点として活動を行っている。その取組の中に、高齢者の方々が運営される農家レストランでの活動がある。地域活性化事業の一環として近隣自治体の限界集落に農家レストランが設けられている。

そこで、その地域の高齢の皆さんに元気で長生きしてほしいとの願いから、「ロコモティブシンドローム予防」をテーマに栄養教育実践をしている。また、学生がその農家レストランを借用し、one day レストランを運営し社会体験をしている。学内での学修のみならず地域の問題を発見し、実際にコミュニケーションを図りながら、問題解決の方法を模索し、地域貢献するというこの活動は学生にとっても大変有意義である。

また、栄養とスポーツに関する取り組みも行っている。

近隣の中学・高等学校で、部活動に取り組む学生を中心に、栄養とスポーツについての出張講義や実践活動による栄養指導も行っている。

7. 教育活動について

(1) 各種コンクール等の開催について

特に高校生を対象として、各自が持っている技術についての評価と、さらに学習の意欲を高めるため、各専攻・コース等でコンクールを開催した。各コンクールでは、自分の生活を見直し、さらなる技術評価が図られる。生徒への働きかけ、指導等の向上、表現活動の向上、高い専門的技術・能力の向上、など多様な視点からの評価と学習意欲を高め、さらに技術・能力の向上を志す人を支援した。

開催された各コンクールは以下の通りである。

- ① 高校生「朝ごはん」コンテンツ（担当：健康栄養学科）
- ② 伝統文化裁縫コンテスト（担当：生活科学専攻）
- ③ わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト（担当：住居学専攻）
- ④ メタバースコンクール（担当：アーカイブ専攻）
- ⑤ 紙しばいコンテスト（担当：初等教育学専攻）
- ⑥ デザイン書道コンクール（担当：書道・国語専修）
- ⑦ 観光写真コンテスト（担当：観光専修）
- ⑧ 英語キャプションコンテスト（担当：観光専修）
- ⑨ デジタル・アーカイブコンクール（担当：アーカイブ専攻）

(2) 岐阜女子大学全国書道展の開催について

本学の書道教育コースでは、書写・書道教育のできる幼・小・中・高等学校の教員養成を目指す。この取り組みを現代の青少年の将来に向けて、生活全般にわたる健全な育成はもちろん、書写・書道教育を通じて人格陶冶の一助に、また、書写・書道教育の発展と振

興を目的に第23回岐阜女子大学全国書道展を企画し、令和6年11月に開催した。全国の高校生・中学生・小学生を中心に半紙作品を募集し、大賞・準大賞・書道展賞他各賞を授与するもので、応募数は20,137点にのぼる。

※快挙「第11回（令和6年度）日展」の『第5科 書』にて在学学生2名が入選した。

（3）ミュージカル活動について

初等教育学専攻の学生は、保育者・教育者を目指しており、両者に不可欠なのは、強い情熱・専門性・人間力である。初等教育学専攻では、人間力を高めるために、農業研究活動とミュージカル活動の2つを核とした取組を行っており、ミュージカルを公開。農業研究活動も取り組んできたため、実質2か月半の短期間の取組となる。

ミュージカル活動を通して、表現力・コミュニケーション力・協働力・対応力・創造力・思いやり・向上心・やりぬく力・実践力などが身につくと考えられる。

（4）各務原市地方創生空き家リノベーション事業について

本学住居学専攻では地方創生に向け空き家問題を解消するために、移住・定住を促進させるために、モデル空き家を対象として、建築・インテリアを学ぶ女子大生の視点からリノベーション・デザインを提案するものである。

地方創生「空き家リノベーション事業」から派生した事業である。各務原市の市営住宅（旭ヶ丘住宅）の1室をリノベーションし、若い世代が暮らしやすい住戸へ生まれ変わらせるため、岐阜女子大学住居学専攻、各務原市、空き家DIY事業推進会議メンバーの3者連携DIY事業である。

（5）商品企画と素材を無駄にしない衣服製作プロジェクト活動について

生活科学専攻ではコロナ発症時に必要なマスクを製造・販売されていたメーカーと寝具・小物雑貨・マスク等の企画製造・販売としてタオルハンカチの販売戦略に一部携わることにより、商品開発を経験することを目的とする。コロナ終息後はマスク製造を中止されたため、未使用の生地や服飾資材の提供を受けて「衣服製作プロジェクト」のデザイン、衣装製作に活用し、ファッションショーを実施する。また、「和綿（オーガニックコットン）プロジェクト活動」との展開も今後視野に入れている。

8. 研究活動について

（1）科学研究費補助金により行われたもの

①「歌舞伎役者の甲州亀屋座興行に関する調査・研究」

基盤研究（C） 文化創造学部准教授：木村 涼

（2）地域食材を活かしたレシピ創作コラボレーション事業委託について

美濃市の公の施設「道の駅 美濃にわか茶屋」と本学がコラボレーションする中で、実践的な研究機会を確保し、食を通じた地域の活性化に取り組むもの。株式会社美濃にわか茶屋の委託事業である。

（3）日本教育情報学会「学会賞」「奨励賞」受賞 [再掲]

学生によるメタバースプロジェクトの研究成果を報告した論文「メタバースを利用した遠隔協働学習における創発の可能性」が2024年8月24日に受賞。

Ⅲ. 財務の概要

1. 学生納付金収入

令和6年度 学生数	832名（5月1日現在）	939,783千円
令和5年度 学生数	909名（5月1日現在）	1,010,451千円
令和4年度 学生数	995名（5月1日現在）	1,100,061千円

2. 寄付金収入

令和6年度		
（1）一般寄付金		814千円
（2）特別寄付金		
沖縄基金		2,400千円
杉の実会（父母の会）		4,617千円
岐阜女子大学同窓会ほか		2,231千円
（3）現物寄付金		
図書他		0千円
合計		10,063千円
令和5年度		20,289千円
令和4年度		18,940千円

3. 補助金収入

令和6年度		
（1）国庫補助金		
私立大学経常費補助金他		131,373千円
（2）地方公共団体補助金等		
岐阜県DX推進事業補助金		10,000千円
岐阜県創生事業DA補助金		4,968千円
岐阜市結核予防費補助金		157千円
合計		146,498千円
令和5年度		174,661千円
令和4年度		206,016千円

4. 人件費 （ ）内は、「うち退職金金額」

令和6年度	629,478千円	（ 11,255千円 ）
令和5年度	726,256千円	（ 86,897千円 ）
令和4年度	688,702千円	（ 17,394千円 ）

5. 教育研究経費 （ ）内は、「うち減価償却額」

令和6年度	492,414千円	（ 97,571千円 ）
令和5年度	474,551千円	（ 93,508千円 ）
令和4年度	500,370千円	（ 99,493千円 ）

6. 管理経費	() 内は、「うち減価償却額」	
令和6年度	187,775千円	(21,104千円)
令和5年度	187,071千円	(20,686千円)
令和4年度	194,187千円	(21,982千円)
7. 土地		
令和6年度		0千円
令和5年度		0千円
令和4年度		0千円
8. 建物		
令和6年度		
新4号館GHP修理室外機他修理	2,664千円	
新いずみ寮乾燥室エアコン更新	825千円	
図書館3F6130エアコン取替工事	390千円	
2号館食堂ガス給湯器切替	352千円	
11号館3F給湯器一式	264千円	
合計	4,496千円	
令和5年度	3,624千円	
令和4年度	7,866千円	
9. 構築物		
令和6年度		0千円
令和5年度		0千円
令和4年度		0千円
10. 教育研究用機器備品		
令和6年度		
機械学習データ解析システム20台	5,280千円	
新4号館2F調理講義室映像関連機器	5,099千円	
新4号館3F理化学実験室映像関連機器	3,040千円	
1号館0316教室改修	1,078千円	
その他	3,915千円	
合計	18,412千円	
令和5年度	9,910千円	
令和4年度	13,725千円	
11. 管理用機器備品		
令和6年度	7,667千円	
令和5年度	0千円	
令和4年度	0千円	

1 2. 図書

令和 6 年度	7 6 8 千円
令和 5 年度	1, 0 4 7 千円
令和 4 年度	1, 1 0 3 千円

1 3. 運用資産

令和 6 年度	2, 6 2 7, 5 1 2 千円
令和 5 年度	2, 7 9 5, 7 4 5 千円
令和 4 年度	2, 7 0 6, 4 9 2 千円

1 4. 正味資産

令和 6 年度	4, 3 1 1, 5 9 5 千円
令和 5 年度	4, 4 6 8, 6 6 9 千円
令和 4 年度	4, 5 1 6, 3 1 3 千円

※ 学校会計基準による様式は、私立学校振興助成法で経常費補助金交付の観点からの表示区分となっております。